

モートン・フェルドマンのレッスン

カリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD) 音楽学部で留学中にモートン・フェルドマンから作曲の個人レッスンを受けることになりました。1987年の初めのころでした。当時、フェルドマンは、客員教授として短期間、UCSDで教鞭をとっていましたが、その最初のレッスンでフェルドマンは「これからアドバイスをするけれど、それは君の考えをクリアにするどころか、混乱させるかもしれない」と、いきなりの前置き。それから、僕の習作の楽譜を丹念に見ながら「君の音楽には対位法がないね」とバツサリ。そこで対位法について僕の五線譜のすみに「Counterpoint is



©Betty Freeman

not explainable in relation to linear structure. It is only demonstrable on a note to note basis. (対位法とは、線の構造との関係で説明されるものではなく、ただ音と音を基準として表示されるものである)」と書き記してくれたのです。ここでいう対位法とは、西欧の伝統的な作曲の書式ではなく、音と音との関係性そのものにほかなりません。このような対位法的な関係は、フェルドマンの音楽のなかで随所に見いだすことができます。また、レッスンにおいても、フェルドマンは、並行、反行、斜行という対位法の原則の重要性を語り、たくさんの音符やイラストを使って説明してくれたのです。



フェルドマン所有のトルコ・ベンガマ地方の絨毯

70年代後半、中東アジアの絨毯に興味を抱いたフェルドマンは、トルコにまで出かけ、さまざまな絨毯の工房を訪ねたとも伝えられています。そして、その絨毯が織られる過程がフェルドマンの作曲に深く浸透していきました。トルコの絨毯では、パターンを織り込む際に、出来上がった

個々のパターンが新たなパターンの下に折り込まれていくため、絨毯全体を鳥瞰することができない。つまり、すでに出来上がったパターンの記憶のなかで新たなパターンが織り込まれる。その結果、不揃いなパターンの連鎖が形づくられていきます。このような「記憶の非方向性」をフェルドマンは積極的に作曲の過程に取り入れていきました。

「来年、またここに戻ってからレッスンの続きをやりよう」と言い残してフェルドマンがサンディエゴを後にしたのは、1987年の3月半ばころ。その後、6月に作曲の弟子だったバーバラと結婚したとも伝えられ、幸せな



藤枝 守 所有

Counterpoint is not applicable to a relation to a linear structure, it is only demonstrable on a note to note basis.

日々を送っているものと思っていました。ところが、9月3日にフェルドマンが亡くなったという突然の悲報は、僕をはじめ多くの人たちに大きな衝撃を与えました。その最晩年のフェルドマンの肖像が、写真家であり、現代音楽のパトロン的な存在だったベティ・フリーマンのカメラに収められています。分厚い眼鏡のレンズの向こうにみえるフェルドマンのやさしい眼差しがとても印象的です。

今年で生誕100年を迎えるフェルドマンの晩年の代表作《バニータ・マーカスのために》(1985)を、関西を中心に活動している法貴彩子さんのピアノで聴いてみたいと思います。ジーベックホワイエの大きなガラス壁面をバックに、日が暮れるころから始まるフェルドマンの不揃いのパターン。そのしずかなパターンの連鎖が、暗闇に向かう時間のなかでどのように変容していくのでしょうか。

藤枝 守

モートン・フェルドマン

Morton Feldman (1926~1987)

50年代、ジョン・ケージやアール・ブラウン、クリスチャン・ウォルフとともに活動しながら、不確定的な要素を含んだ図形楽譜を考案したが、60年代以降は伝統的な記譜法にもどり、「フェルドネスク」ともよばれる極度に点描的で音量が抑制された独自のスタイルを確立。また、晩年の作品では、演奏時間が長大化する傾向となり、6時間にも及ぶものもある。フィリップ・ガストンの抽象表現主義の画家たちとも交流が深かった。1987年に膵臓がんのために亡くなった。

法貴彩子 (ほうき さやこ)

ピアノ



パリ国立高等音楽院、リヨン国立高等音楽院第3課程、パリ・エコール・ノルマル音楽院コンサーティスト課程を修了。フランス国家コンサーティストディプロムを取得。エピナル国際コンクール(フランス)入賞。フォーラム・ド・ノルマンディーにて現代曲賞等多数受賞。在学中よりパリ、リヨン等フランス各地でソロや室内楽等でコンサート、リサイタルを開催。帰国後、第20回ABC新人コンサート最優秀音楽賞受賞。第23回宝塚ベガ音楽コンクール第1位および兵庫県知事賞受賞。NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」「リサイタル・パッショ」に出演。国内外のオーケストラと多数共演。2021年より、自身の企画である「法貴彩子ピアノジャンクション」を始動させ活動の幅を広げている。滋賀大学准教授。同志社女子大学非常勤講師。スタジオスキップ講師。 X@SayakoHoki

藤枝 守 (ふじえだ まもる)

トーク



作曲を湯浅譲二やモートン・フェルドマンらに師事。植物の電位変化データに基づく《植物文様》を展開。著書に『増補 響きの考古学』や電子書籍『孤高の響き』など。TZADIK から3枚のアルバムをはじめ《ルネサンスの植物文様》《ガムラン曼荼羅》《枯野：植物文様ソングブック》など多数。現在は、喜界島サンゴ礁科学研究所特別研究員としてサンゴ骨格音響によるアートプロジェクトを実践。2027年2月に福岡アジア美術館にて「ガムラン曼荼羅 四部作：完結版」の公演を予定。九州大学名誉教授。Ph.D. in Music (University of California, San Diego)。令和7年度福岡市文化賞を受賞。

“モートン・フェルドマン生誕100周年記念ピアノコンサート”

記憶を
織る

2026年 11月14日(土) 18:00 開演
ところ：福岡アジア美術館あじびホール
料 金：3,000円(前売予約) 3,500円(当日)

For Bunita Marcus (1985) Triadic Memories (1981)

演奏：松村由佳

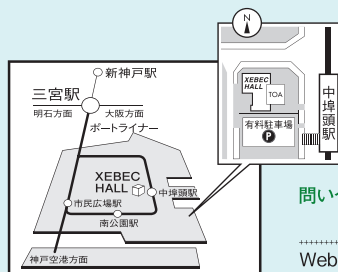
演奏：Layla / Gumi

企画：藤枝守 主催・制作：アートカフェ・コレクティブ

後援：福岡市、(公財)福岡市文化芸術振興財団

助成：公益財団法人福岡県教育文化奨学財団

問い合わせ：artcafecollective@gmail.com



三宮よりポートライナーにて中埴頭駅下車

サウンドカルチャーコレクティブ(SCC)会員募集

会員専用のメーリングリストがあります。2ヶ月毎にオンラインで「サウンドカルチャー・カフェ」を開催しています。またサウンドカルチャー・コレクティブ主催プログラム等への優待も行っています。ぜひご参加ください。



ご参加はこちらから！

問い合わせ 株式会社ジーベック (担当：菅原)

TEL: 078-303-5600 MAIL: hallinfo@xebec.co.jp

Website: https://sales.xebec.co.jp/ Instagram@xebechall_kobe

Facebook@xebechall X@xebechall_kobe